

# 火おこし

## 1 活動の概要等

はるか昔、わたしたち人間は火を使うことができませんでした。暗闇の中では、ひたすら他の獣から身を隠し、寒い冬の日には身を寄せ合いながら暖め合って生きてきました。やがて、人間は火を利用することを学びました。火は、他の獣たちから身を守り、寒い冬の日には体を暖め、暖かい食事も提供してくれました。火を使うことで、人間の生活はどんどん便利になりました。

しかし、現代は、火の大切さやありがたさをいつの日か忘れかけてきているように思えます。

そこで、この活動を通して、自分たちの力で木と木の摩擦によって火をおこし、人間の文明の原点に立ち返り、自然の偉大さを実感する機会にしたいと思います。

## 2 時期・時間

春から秋頃まで活動できます。

10分～1時間

## 3 活動場所

青少年自然の家キャンプ場 野外炊飯場 営火場 等

## 4 準備

青少年自然の家で貸し出しできる物	利用者に準備する物
無線 火おこし器本体 のこぎり 小刀 その他作業に必要な道具	活動に適した服装 タオル 軍手 火きり板 火きり杵（売店で購入します。） 新聞紙 麻ひも カンナ屑 薪 救急薬品 其他必要な物

## 5 実施例

①火きり板と火きり杵をつくります。（売店で焼き板用の板を購入してください。）



②麻ひもをほぐして、その上に火きり板をのせます。

③火きり杵をセットして、火きり板の穴に垂直にたてます。

④芯棒を回転させ、ロープを巻きつけます。

⑤火きり板を足でしっかり固定し、両手で横木を持って、ゆっくり下げて芯棒を回転させます。

⑥ロープが伸びる少し手前で力を抜くと、反動で自然にロープが芯棒に巻きつき、横木が上がってきます。

⑦この上下運動をゆっくりと繰り返して、少しずつ力を入れていきます。

⑧煙が出てきたら、さらに力を加えて回転し続けます。

⑨麻ひもの上にたまった黒い粉の中に火種ができれば回転を止め、麻ひもを取り上げて息を吹きかけながら火種を大きくしていきます。

⑩火がついたら、薪に火を移します。

## 6 留意点

- ・火きり板と火きり杵は、事前に作ってきてもいいです。
- ・麻ひもに鉛筆の削りかすを混ぜておくと火がつきやすくなります。
- ・火きり板と火きり杵は十分乾燥させてください。
- ・火きり杵は、杉材より桐やバルサ、紫陽花等が適しています。